



ワンステップ  
上に行くための術

市販サスペンションにとつて、車高も調整できる独自機構が専ら一般的であり、高性能と見なされるのが通例である。それだけに、屈指のスポーツパルメーカーであるHKSが、車高調整機能を排したシンプル機構を新たに発売することに、驚きを感じた人も多いだろう。

「最近、海外製品を含めて格安なものが多くなり、単純にスベックだけで比較してもあまり差別化ができないような市場状況になりつつあると感じていました。我々は、絶対的クオリティを追求しながら展開してきたんですけれど、もうちょっと違う展開を改めて図ってみたいなどと考えた時に、こういった形状も市場にあることを認識しました。であれば後発にはなりませんけれど、チャレンジしてみようかとなったんです」。

調整余地が限られる純正同形状のリプレイス品には、実は利点も多い。

「車高調整式を購入される方も、実際には車高を調整しない方も多いようなんです。そう考えた時に、こち

こちらで考える  
ベストバランスを提案しています



株式会社  
エッチ・ケー・エス  
自動車開発部 6課  
課長  
今井達也 氏

シンプル機構に込められた  
ステップアップの新チャレンジ

「まずは乗って疲れないことですね。多くの方はなるべくゴツゴツ感は少ない方が快適です。それと高速道路で巡航してる時でも、横風の影響で振られないとか、レーンチェンジをした時に変な挙動が出ないことも、やっぱり疲れないことにつながってくると思います」。

形状が一緒だとして、純正品と比べるとどうなのだろう。

「街中のタウンスピードで使った時に快適に感じられるようにというところで、ゴツゴツした感じ

を排除してあげようという方向で味付けをしてきました。ただ単純に柔らかくしただけでは、後付けの商品としてはあまり意味がありません。なおかつ、まず前提として我が社の製品にはスポーティなイメージがあると思うので、その辺のイメージはある程度維持しつつ、乗り心地とある程度のしつかり感をバランスさせました」。

純正よりも引き締めた足まわりという、固さを連想する人も多いたろう。ただ話はその単純ではない。

「単筒式ダンパーの特性を活かして、動き出しからきちんと減衰力を立ち上げるなど、全体のバランスはもちろん取っていますが、実はダンパーの減衰力も、条件によっては純正より低かったりするんです」。

狙ったのはあくまで方針転換ではなく、パルメーカーによる新たな挑戦だ。

「今までも、車高調整式では2年4万kmという保証をずっと付けてきましたが、今回ワンステップ上がついていくにあたって、3年6万kmに延長しています。技術的な部分の積み重ねを含め、新たなチャレンジという事です」。

上質さ追求の試みで  
新たなユーザーを獲得し  
チューニングの幅を広げた



HKS  
HIPERMAX G

あえて純正形状を採用し、ダンパーのストローク量を確保し、減衰特性をきめ細かく設定しつづ、適度にローダウンさせ、走行安定性と乗り心地を両取り。純正品を上回る性能を保持する。



アルファードやヴェルファイアのような大型ミニバンに、ノア/ヴォクシーのミドルサイズミニバン、さらには86/BRZのスポーツタイプから、プリウスそしてクラウンといったクルマまで、対応車種は今後も拡大予定だ。



車高調整式と同じく「ハイパーマックス」の名が添えられる。これまでにない新たなシリーズとして、純正同形状の「G」の系譜は2016年から始まる。